



第66期 中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

FUSO REPORT



扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368

Top Interview

株主の皆さまには平素より格別なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。



代表取締役社長
杉田 真一

代表取締役会長
藤岡 実佐子

Q1 当上期の業績についてお聞かせください。

当社グループは従業員への新型コロナウイルス感染防止対策を引き続き徹底しており、業績に対するその影響は限定的なものに留まりました。各事業においては原材料価格が大幅に上昇したものの、迅速に製品価格に転嫁できたこと、計画より大幅に円安に推移したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は353億5千9百万円（前年同期比40.5%増、101億9千1百万円増）となりました。また、売上高の増加により営業利益は95億7千8百万円（同49.1%増、31億5千3百万円増）、経常利益は107億5千7百万円（同65.9%増42億7千5百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は75億1千6百万円（同67.5%増、30億2千7百万円増）となり、前年同期比で増収増益となりました。

Q2 直近では円安の状況が続いていますが、当社業績への影響をお聞かせいただけますか？

当社のビジネスは、円安がプラスに働きます。昨年度の実績ベースでは、為替が1円円安になると売上高で2億円、利益で4千万円の年間でのメリットがありました。直近の大幅な円安は、売上高、利益ともにプラス要因となりました。但し、各製品の販売物量増が売上増の主要因であります。中期経営計画で掲げている海外売上高比率も現時点で50%を越えました。一方、これまでの利益率を保つには非常に厳しい局面が続いています。果実酸類の主要原料となるトウモロコシや、コロイダルシリカの原料である金属ケイ素等の価格は依然として高止まっており、

これに円安の影響が加わりました。外部環境、市況の変化のスピードは早まるばかりですが、価格や需要の変化には迅速、かつ柔軟に対応することで利益確保に努めています。

Q3 大型の設備投資が続いていますが、大きな需要拡大を見込まれているのですか？

スマートフォンの通信高速化やキャッシュレス決済が進むなど、我々の生活が便利になってきていると感じませんか？当社の超高純度コロイダルシリカは、こうした技術に使われている最先端の半導体製造の研磨剤として欠かすことのできない素材です。自動化やデータ通信の大容量高速化が進むため、半導体メーカーは大型投資を続けています。この先も需要の拡大が予想されており、当社は供給責任を果たすため、常に先んじた投資の経営判断をしています。

これまでも、こうした投資判断を積み重ねてきました。たとえば2018年に京都事業所の超高純度コロイダルシリカ製造設備を増強したことで、現在の強い需要にも応じることができています。またライフサイエンス事業も2019年に鹿島事業所のリンゴ酸製造設備を新設したことで、海外でのリンゴ酸の販売増につながることができました。この長期目線をもった戦略と投資こそが、当社の強みであり、お客様の信頼獲得につながっています。

Q4 神戸に研究所が設置されましたが、研究体制の特徴についてお聞かせください。

当社は研究員に「スピード・コスト・クオリティ」をモットーに、お客様と向き合うことを求めています。たとえば製品開発において、研究員はお客様と直接対話する事でニーズを捉え、試作を繰り返し、量産化までの体制を作り上げています。他社に真似がで

きない製品を短期間に作り上げる、求めるものは多すぎるかもしれませんね。ただ、そこに学生の頃と違う、ビジネスとしてのやりがいがあります。私自身、キャリアの中で、長く研究開発に携わってきたからこそ、この醍醐味を研究員には味わってほしいと思っています。年齢や性別に関係なく、チームやプロジェクトのリーダーを任せることで、若手社員も裁量権を持って、主体的に



仕事を進める経験を積んでもらっています。今回、神戸研究所を設置したことで、東西ともに、都心部に近い研究体制が整いました。これからも優秀でバイタリティ溢れる学生に選ばれる研究所を目指していきます。

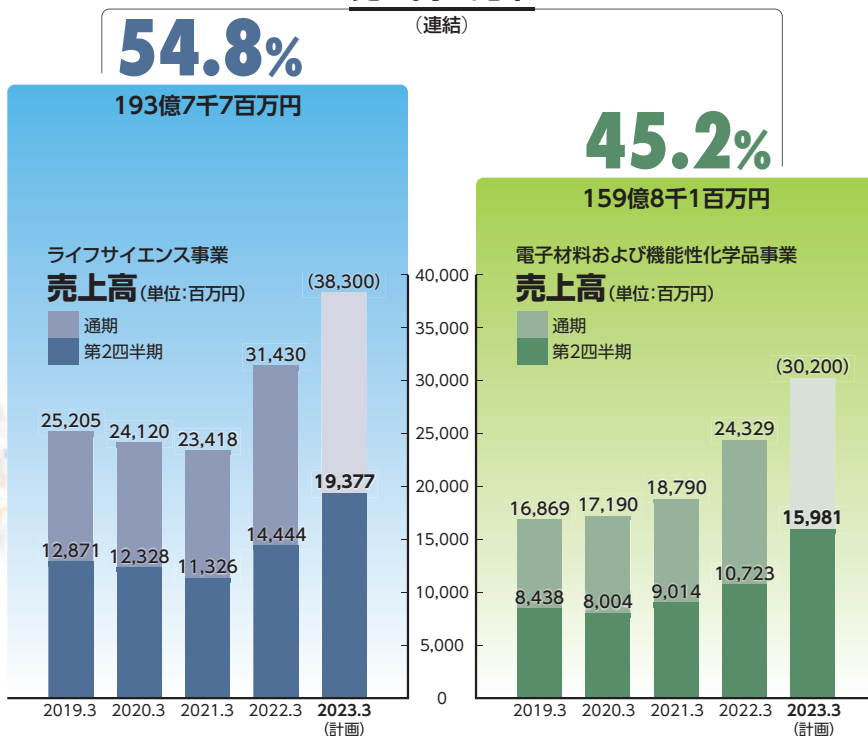
Q5 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

今、世界はこれまでにないほど不安定な状況となっています。ウクライナ、北朝鮮、米中関係、コロナ・・・先が全く見通せない状況です。そのような中、当社は、『信用を重んじ確実に旨とする』経営信条に基づき、常にお客様と真摯に向き合う事で成長を続けています。より強固な経営基盤を構築するために、生産能力の増強を推し進め、さらに新製品の上市により中長期にわたって成長を続けてまいります。2022年度の当社グループの業績は、計画に対してこれまで順調に推移しており、年度計画達成に向け尽力してまいります。株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、引き続きよろしく願い申し上げます。

ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が193億7千7百万円(前年同期比34.2%増、49億3千3百万円増)、営業利益は33億4千8百万円(同61.3%増、12億7千1百万円増)となりました。

日本においては、原料価格の高値は継続し、販売価格が原料価格に連動する契約となっている製品の販売単価は引き続き上昇しました。その他の製品においても、原料価格、輸入価格の高騰に対応して販売価格の改定を継続して実施しています。リンゴ酸の輸出も順調に推移し、価格改定や円安の効果もあり売上高は増加しました。海外子会社においても、原料価格の高騰に対して価格改定を実施し、販売促進の取り組みによる各国での売上増加、円安による円換算後の増加効果もあり、売上高は増加しました。その結果、セグメント全体の売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。営業利益は、世界的な原料価格の高騰、円安による輸入価格の上昇、エネルギー価格の上昇、物流費増加等のコストアップの影響があったものの、売上高の増加により、前四半期連結累計期間を上回り増収増益となりました。

売上高の比率



電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が159億8千1百万円(前年同期比49.0%増、52億5千8百万円増)、営業利益は71億4千9百万円(同41.8%増、21億7百万円増)となりました。

半導体市場は、欧米経済の減速懸念や中国経済の減速による需要減退の懸念材料はあるものの、成長は継続し、引き続き堅調に推移しました。当社主力製品の超高純度コロイダルシリカは、半導体の微細化の進展により需要は増加し、採用も増加しています。原料価格の高騰は一時より緩和したものの、高値は継続しており、販売価格の改定を継続し、円安効果もあり売上高は増加しました。加えて、在宅勤務の普及によるトナー需要減退の影響を受けたナノパウダーの需要は回復し、セグメント全体の売上高は前四半期連結累計期間を上回りました。営業利益は、原料価格、エネルギー

価格の上昇が製造コストに大きく影響し、物流費も増加したものの、売上高の増加、増産によるコストダウン効果、生産設備に係る減価償却費の減少により、前四半期連結累計期間を上回り増収増益となりました。



TOPICS①ライフサイエンス事業

PMP社における設備投資

当社の米国連結子会社であるPMP Fermentation Products, Inc. (PMP社)は、コンクリート混和剤用途、肥料用途、食品用途等様々な用途に使用される化学品「グルコン酸ナトリウム」類を製造・



販売する北米唯一のメーカーです。コロナ禍からの経済回復が進む北米市場において、今後も引き続き需要の拡大が見込めることから、増産設備投

資により製造能力を約2割増強させることを目指しています。当該製品に対して、現在もお客様からの多くの供給要望をいただいておりますが、今回の増産投資により供給体制を整え、需要にお応えしてまいります。

設備投資内容	主発酵槽および付帯設備、各種タンク、その他
投資予定額	約12億円(855万米ドル)※1米ドル=140円
資金計画	PMP社自己資金により充当
操業開始時期	2023年10月(予定)

■PMP社 主要な損益情報(2022年3月期)

売上高	61.7億円(55.0百万米ドル)*
経常利益	13.0億円(11.6百万米ドル)*
当期純利益	9.4億円(8.4百万米ドル)*

*為替換算レート:1米ドル=112.38円

TOPICS②電子材料事業

「神戸研究所」開設



これまで当社電子材料および機能性化学品事業部は日本国内に二つの研究開発拠点(福知山市・川崎市)を有して

おりましたが、京都事業所内の研究開発拠点(福知山市)を移転し、2022年7月に「神戸研究所」として設立いたしました。同施設は、ますます高度化する半導体産業へ着実な技術提供を実現するため、電子材料事業の研究・技術開発を主導する役割を担い、当社グループ技術革新の最重要拠点と位置付けています。また、神戸空港や関西主要都市部だけでなく、量産体制の拠点である京都事業所ともアクセスが良い立地です。国内外のお客様・研究機関

とのコミュニケーションをさらに充実させ、市場とお客様に密着し、ニーズに合わせた製品研究・開発を行うとともに、研究員がより活躍できる魅力的な環境を整え、優秀な人材確保、育成の取り組みにつなげてまいります。

とのコミュニケーションをさらに充実させ、市場とお客様に密着し、ニーズに合わせた製品研究・開発を行うとともに、研究員がより活躍できる魅力的な環境を整え、優秀な人材確保、育成の取り組みにつなげてまいります。

名称	神戸研究所
所在地	神戸市中央区港島南町七丁目1番16号 神戸医療機器開発センター207
事業内容	ナノ粒子「超高純度コロイダルシリカ」のコア技術を中心とした高機能素材開発

当社グループは中期経営計画の中で、将来の成長ドライブとなる、研究開発投資を大幅に増額することを計画しています。「神戸研究所」の設立は、社是である「限りなき進歩と創造」の下、中長期を見据えた当社グループの研究開発体制構築の序章です。

社会課題の解決に貢献するFUSOであるために、常に先を見据え、新製品開発・新技術開発への投資・挑戦を加速させてまいります。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2022年9月30日)	前連結会計 年度末 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産	52,484	52,078
現金及び預金	21,350	24,236
受取手形及び売掛金	16,231	14,886
商品及び製品	9,507	7,972
仕掛品	690	764
原材料及び貯蔵品	3,689	3,240
その他	1,014	976
固定資産	46,488	39,931
有形固定資産	42,320	35,290
建物及び構築物(純額)	9,743	9,651
機械装置及び運搬具(純額)	7,346	7,049
土地	6,924	6,902
建設仮勘定	17,728	11,247
その他(純額)	577	439
無形固定資産	1,675	1,904
投資その他の資産	2,492	2,736
投資有価証券	847	1,030
長期前払費用	421	492
繰延税金資産	910	910
その他	312	302
資産合計	98,973	92,009

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (2022年9月30日)	前連結会計 年度末 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債	13,893	14,667
支払手形及び買掛金	2,887	3,039
未払金	1,676	1,883
設備関係未払金	4,712	4,900
未払法人税等	3,020	3,219
その他	1,596	1,623
固定負債	2,128	2,038
繰延税金負債	228	187
退職給付に係る負債	1,595	1,555
その他	304	295
負債合計	16,022	16,706
純資産の部		
株主資本	78,684	72,225
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	70,642	64,183
自己株式	△1,112	△1,112
その他の包括利益累計額	4,266	3,077
純資産合計	82,950	75,303
負債純資産合計	98,973	92,009

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2022年4月 1日から 2022年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2021年4月 1日から 2021年9月30日まで)
売上高	35,359	25,167
売上原価	21,066	15,138
売上総利益	14,292	10,029
販売費及び一般管理費	4,714	3,603
営業利益	9,578	6,425
営業外収益	1,184	60
営業外費用	5	3
経常利益	10,757	6,482
特別利益	84	11
特別損失	19	18
税金等調整前四半期純利益	10,822	6,475
法人税等	3,306	1,987
四半期純利益	7,516	4,488
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,516	4,488

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 (2022年4月 1日から 2022年9月30日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2021年4月 1日から 2021年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,289	4,595
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,637	△1,775
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,062	△1,998
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,219	64
現金及び現金同等物の増減額	△3,191	886
現金及び現金同等物の期首残高	23,460	24,835
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,268	25,722

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1

(連結貸借対照表)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ69億6千3百万円増加し、989億7千3百万円となりました。これは主に、京都事業所および鹿島事業所の大型設備投資等に係る建設仮勘定の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ6億8千3百万円減少し、160億2千2百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金、未払金、設備関係未払金の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ76億4千7百万円増加し、829億5千万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

Point 2

(連結損益計算書)

当第2四半期連結累計期間において、前年同期に比べて欧州向けリンゴ酸輸出の割合を増やすなど、各事業の販売が輸出を中心に順調に推移しました。さらに各種原材料価格の高騰を受けた一部製品の価格改定継続や、円安効果により、売上高は前年同期を上回りました。

また、仕入れ価格や原材料価格の高騰が続いており、エネルギー価格等の生産コストの上昇や、売上増による物流費の上昇などもありましたが、同時に両部門での売上増に伴うコストダウン効果があり、営業利益は前年同期を大きく上回り、過去最高益となりました。

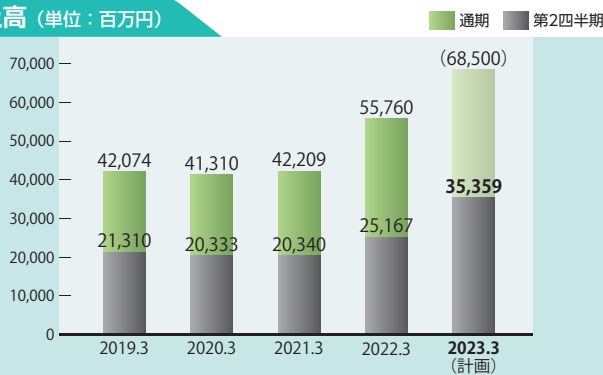
Point 3

(連結キャッシュ・フロー計算書)

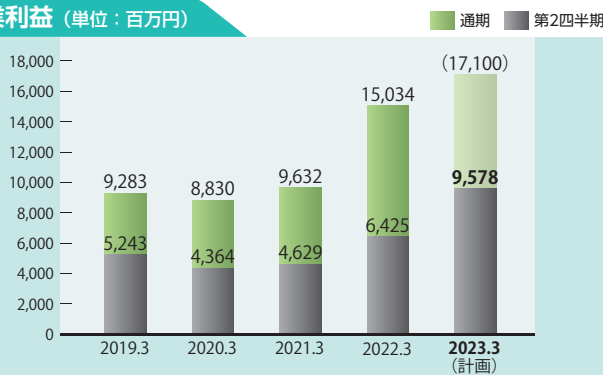
当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により増加した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ31億9千1百万円減少し、202億6千8百万円となりました。

業績ハイライト 連結

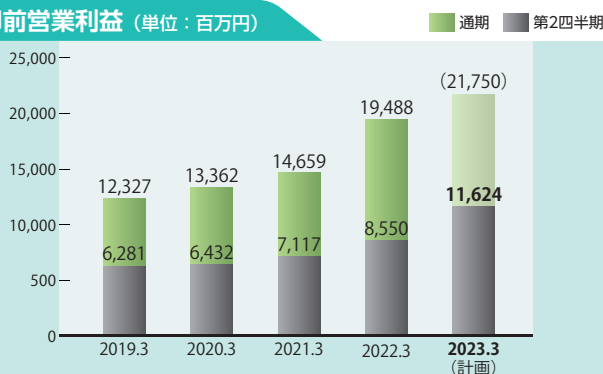
売上高 (単位: 百万円)



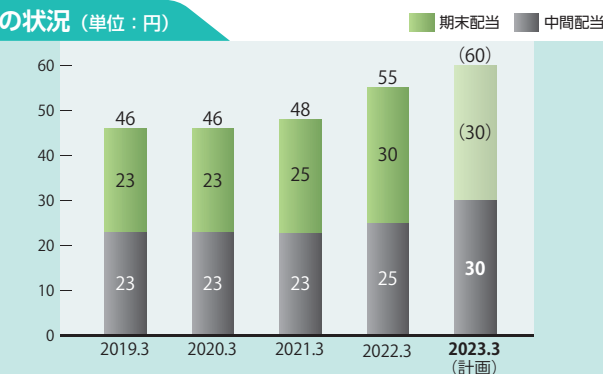
営業利益 (単位: 百万円)



償却前営業利益 (単位: 百万円)



配当の状況 (単位: 円)



第2四半期と通期における業績の推移

	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期 (計画)
売上高 (百万円)	21,310	42,074	20,333	41,310	20,340	42,209	25,167	55,760	35,359	68,500
営業利益 (百万円)	5,243	9,283	4,364	8,830	4,629	9,632	6,425	15,034	9,578	17,100
経常利益 (百万円)	5,623	9,854	4,403	8,954	4,505	9,746	6,482	15,509	10,757	18,100
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,883	6,881	3,013	7,014	3,086	6,808	4,488	10,890	7,516	12,550
償却前営業利益 (百万円)	6,281	12,327	6,432	13,362	7,117	14,659	8,550	19,488	11,624	21,750
1株当たり当期純利益 (円)	109.38	193.81	84.87	197.56	86.92	191.75	126.59	308.08	213.26	356.09

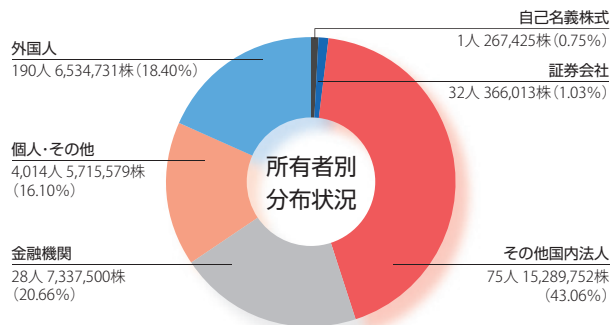
株式の状況

(2022年9月30日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000株
- 発行済株式の総数：35,511,000株
(自己株式が267,425株含まれています。)
- 株主数：4,340名

株主の分布

(2022年9月30日現在)



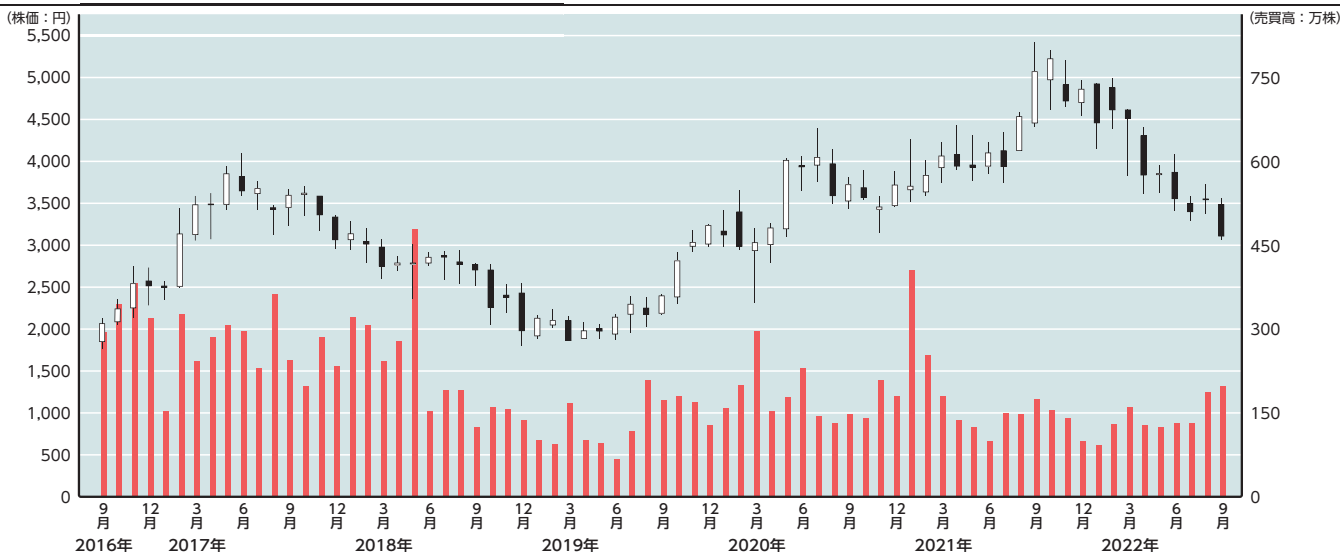
大株主

(2022年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.88%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,082,800	8.75%
赤澤 庄三	2,085,965	5.92%
株式会社日本カस्टディ銀行(信託口)	2,019,700	5.73%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.37%
公益財団法人赤澤記念財団	1,000,000	2.84%
株式会社百十四銀行	596,400	1.69%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

株価の推移



会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号
(日生伏見町ビル新館5階)
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
京都事業所
京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番16号
(神戸医療機器開発センター207)
東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)

役員

(2022年12月1日現在)

- 名誉会長および取締役
フアウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
代表取締役会長 藤岡 実佐子
代表取締役社長 杉田 真一
専務取締役 政氏 晴生
(電子材料事業部長)
専務取締役 谷村 隆史
(国際事業部長)
取締役 梶本 源樹
(ライフサイエンス事業部長 兼 営業開発本部長 兼 営業企画部長)
取締役 藤岡 篤
(企画開発室長 兼 経営企画部長)
取締役 百嶋 計 (社外・独立)
取締役 監査等委員 木下 善樹 (社外・独立)
取締役 監査等委員 平田 文明 (社外・独立)
取締役 監査等委員 江黒 早耶香 (社外・独立)
- 執行役員
執行役員 宮本 典和
(ライフサイエンス事業部 ライフ生産本部長)
執行役員 伊藤 裕之
(管理本部長)
執行役員 山川 恭弘
(電子材料事業部 電子材料本部長 兼 事業推進室長)
執行役員 田中 寛之
(電子材料事業部 電材生産本部長 兼 生産部長 兼 京都事業所長)
執行役員 二宮 主税
(中国扶桑グループ総代表)

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<https://fusokk.co.jp>)

- 上場金融商品取引所 東証プライム

【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。

当期の中間配当金につきましては、前期と比べ5円増配の、1株につき30円とさせていただきます。期末配当金は1株当たり30円とさせていただきます、当期の年間配当金につきましては、1株につき60円を予定しています。



FUSO  扶桑化学工業株式会社

<https://fusokk.co.jp>

